

ねえ、せんせい

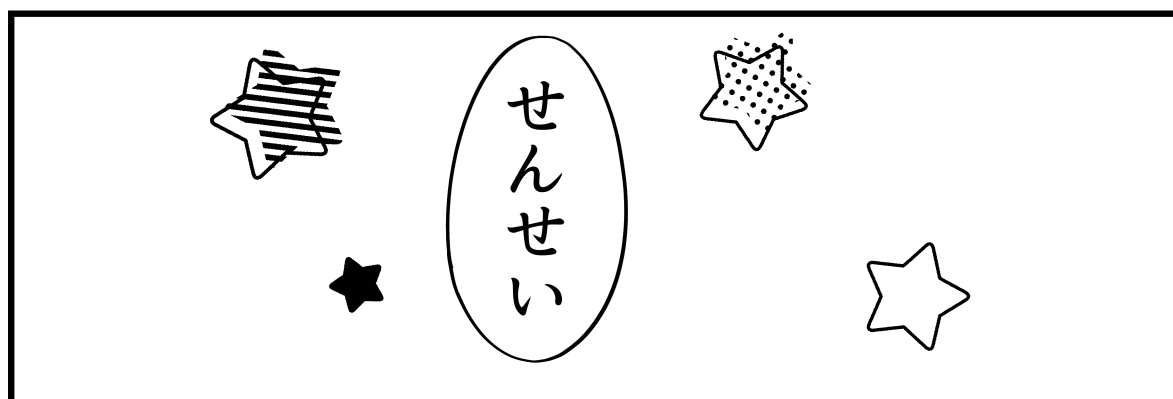
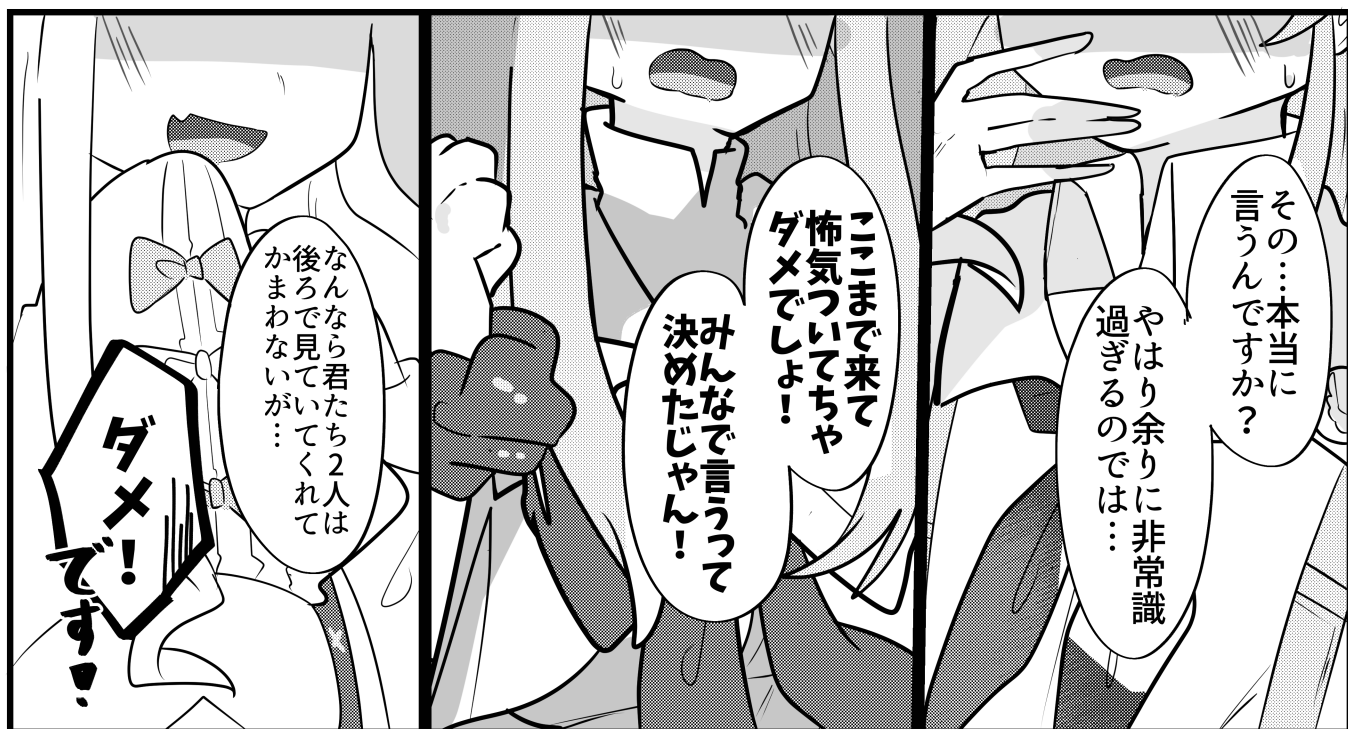
おんなのこってね!
みんなおひめさまに
あこがれるんだよ!

だってね!
きれいでかわいくて
きらきらしてて!

しあわせで…



事の発端は
数か月前に遡る…



大好きです



こんな事…
ありえないお話ですし
我ながら馬鹿げているとは
思うのですが…

三人全員で議論を
交わしてね…

一旦は皆で交際を
持ちかけてみようと
云う結論に達したわけだ

先生がいいなら、それで
最終的には誰がいいか
決めて欲しいなつて…

は…はい…

※三股なんかすんなよ



大変なことに

なつてしまった…



あのティーパーティと
お付き合いをする事になつて数か月…

しかも3人全員

3人とも超絶お嬢様
故に金銭感覚の
ズレも凄まじいし…

それに皆、トリニティ
各派閥の代表だ…
これが広がったら
どんな目に会うのか…

勿論、返事を了承したのは
私だし、その責任は
とらないといけない…

??



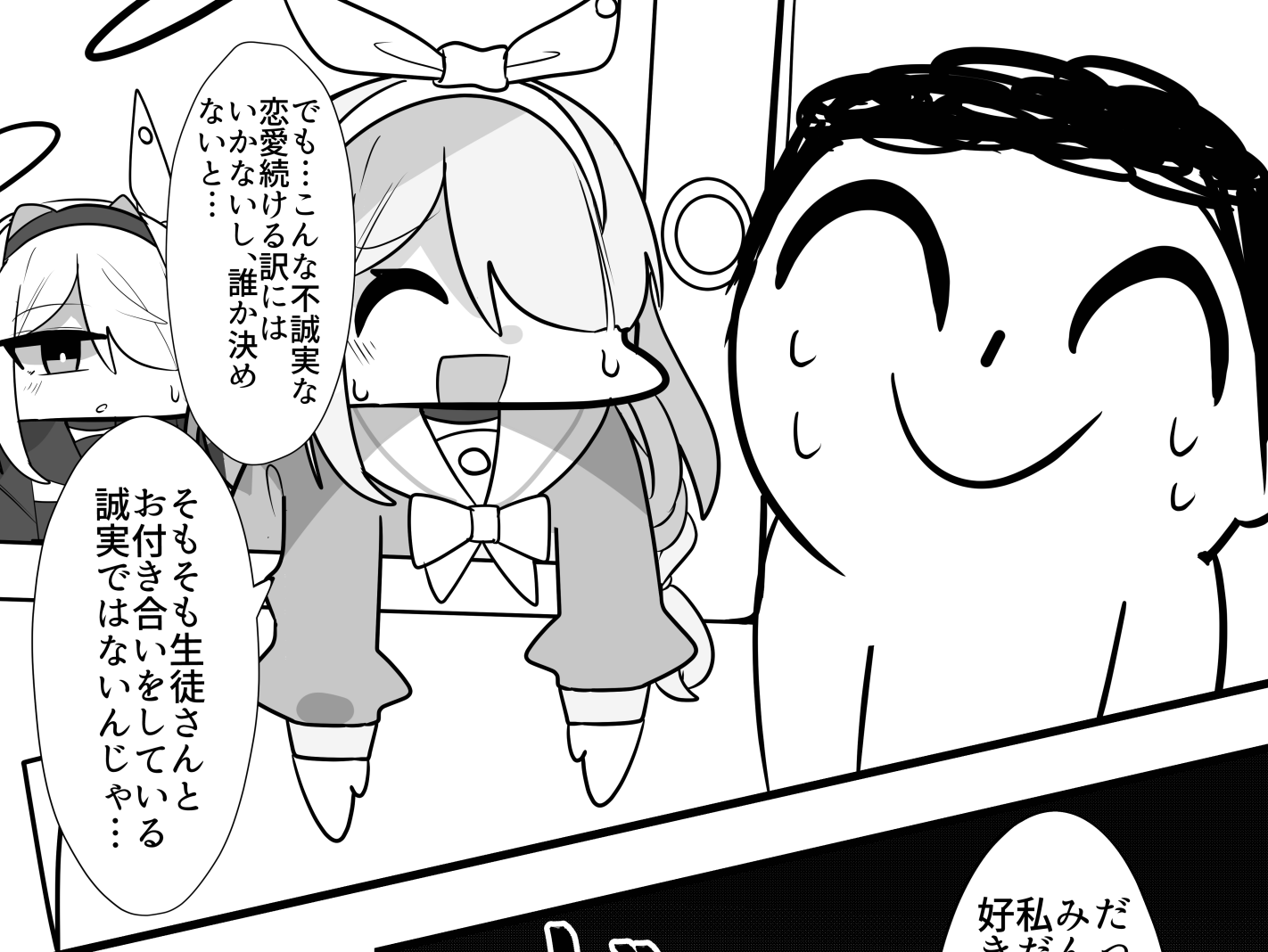
先生には
ティーパーティーの
恋人として茶葉の違いを
理解して頂かなければ…

ただ、最終的には
誰か1人を選ばない
といけないなんて…

メッセージの送信を取り消
メッセージの送信を取り消
メッセージの送信を取り消
メッセージの送信を取り消
メッセージの送信を取り消
メッセージの送信を取り消
メッセージの送信を取り消
メッセージの送信を取り消
ミカ!?

3人平等に時間を
使い愛を注ぐ…





でも…こんな不誠実な
恋愛続ける訳には
いかないし、誰か決め
ないと…

そもそも生徒さんとお
付き合いをしている
誠実ではないんじゃないか…

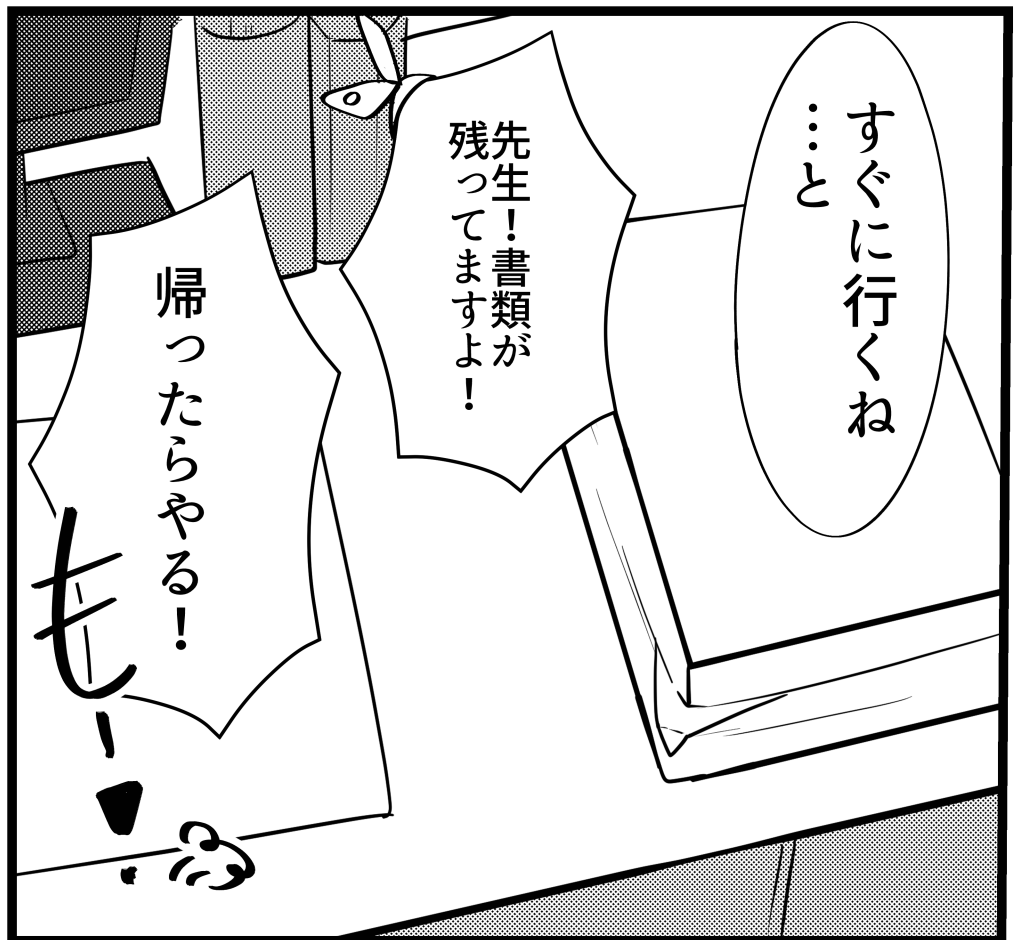
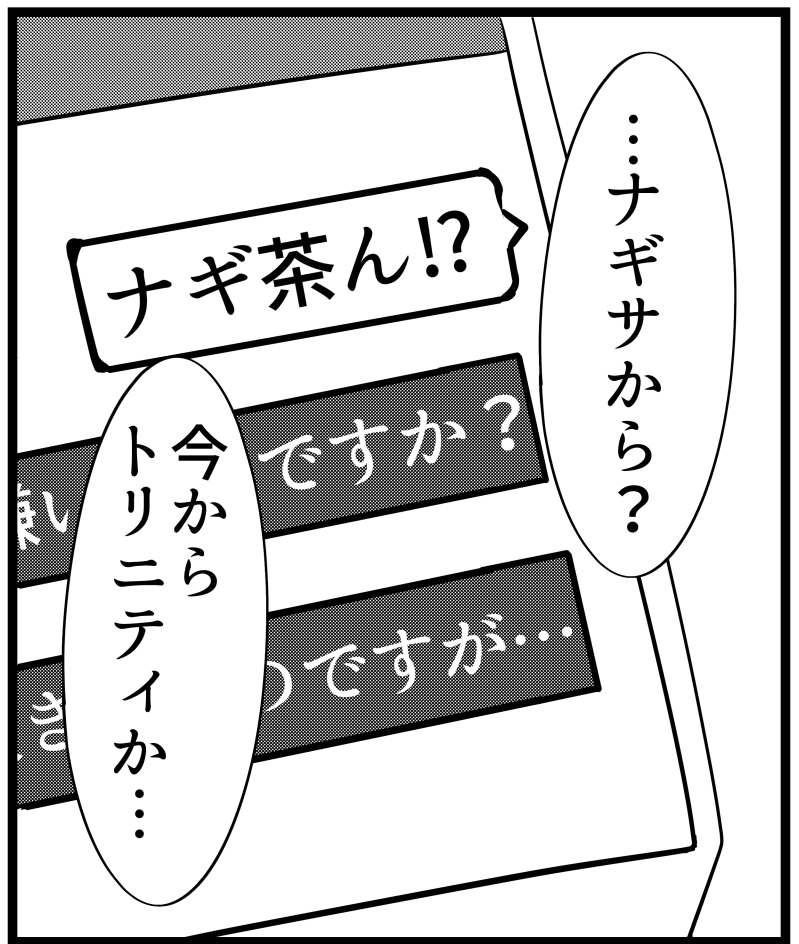
だって…
みんなかわいいし…
私だって皆のことを
好きなのは本当だし…



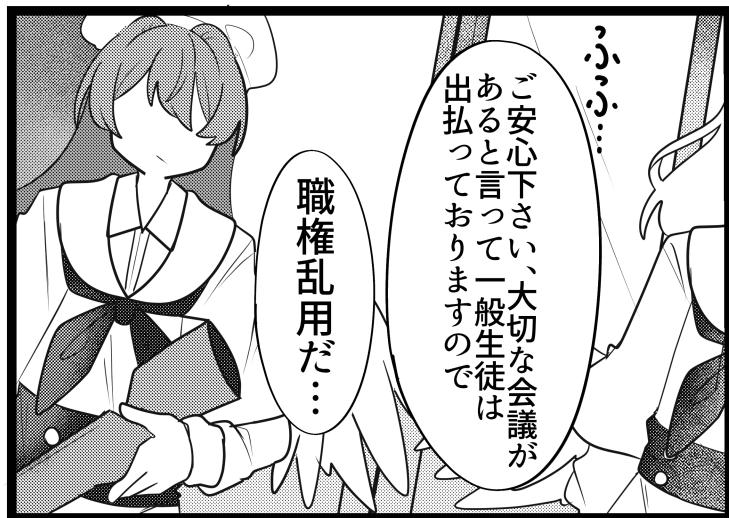
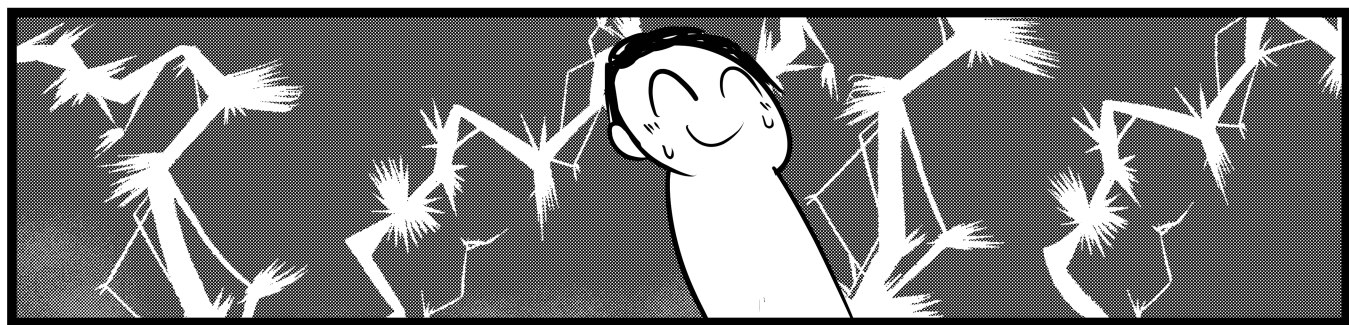
…と、噂をして
いたら連絡がきて
いますよ先生



ダメ大人









やって…
下さらないの
ですか…？

いつもみたいに

~~~~~!

ナギサは…



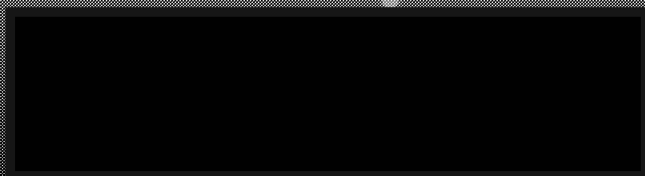
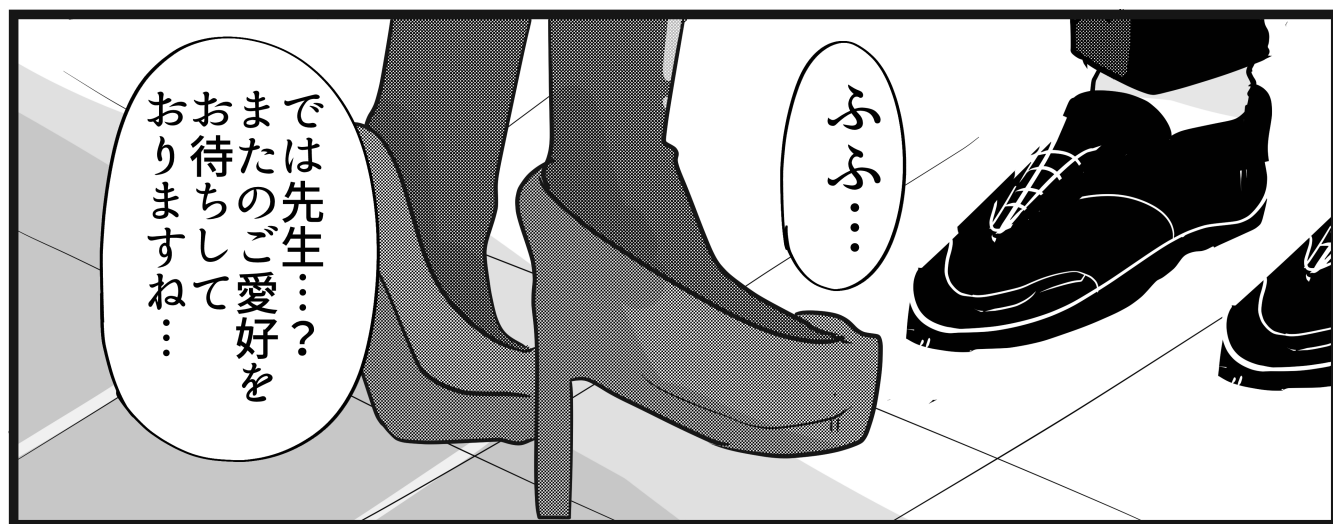
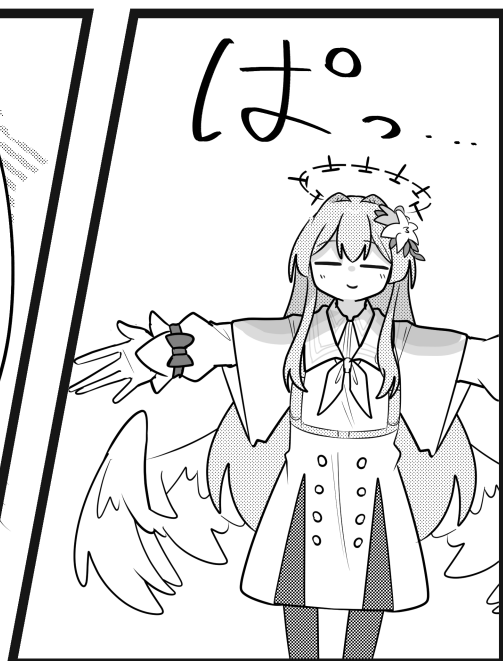
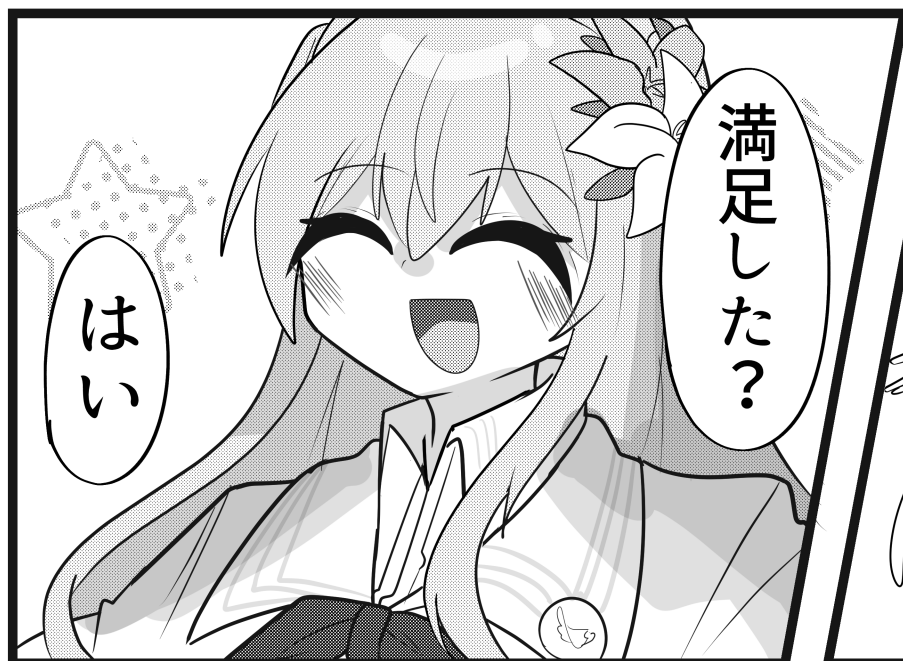
甘える回数が  
増えた気がする…

それこそ、年相応の  
少女のように…

きつと…  
肩書を捨てて…  
一人の少女…

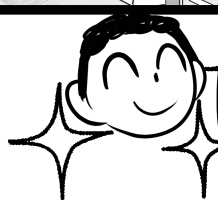
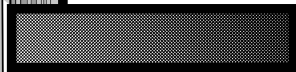
「桐藤ナギサ」に  
戻れる安心感が  
あるのだろう







やあ...先生



セイア

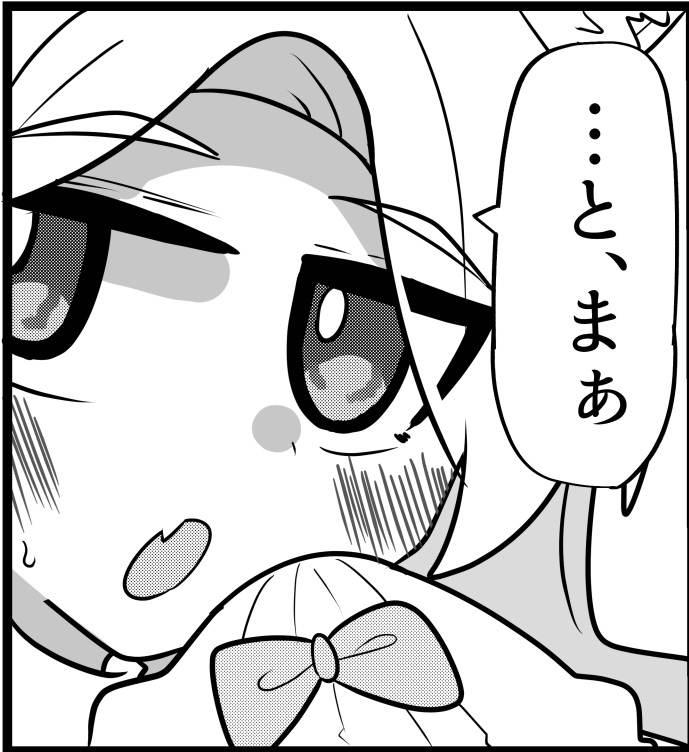
お帰りかい？全く...  
来訪があるのなら  
便りの一つ送って  
くればいいものを...

ご...ごめん...

この時間は休ん  
でるかもと思っ...



じ〜



セイアは：

以前より数段：  
自由気ままになっ  
て  
いる気がする

急な訪問や  
気ままな行動は  
日常茶飯事だ：

よく言う  
と  
甘え上手

俗っぽく言う  
と  
かまってちゃんだ：

すう...

好奇心が原動力だが  
病弱で伏せていた  
彼女にとって

有意義な時間を提供  
できているのなら  
それが何よりだ：

先生

ごめん…セイア…  
起こしちゃった？

いや…差し障り  
はないよ…

ただ…そうだね…  
もう少し…側に…  
寄ってくれないか…？

忌憚の念を抱く  
必要はないよ…

私達は…恋仲…  
なのだろうか？



ごめんね…  
こんな夜に急に  
会いたいなんて

ううん…先生が忙しい  
のは知ってるし  
会いたいに来てくれただけでも  
嬉しいよ

今日はミカとお話  
しようと思って  
来たからね

本当!?  
えへへ…



ミカは

意外にも以前と  
変わらなかった  
いや…それどころか…

未だ状況に慣れず  
にいるのか…

こういつた事  
には人一倍憧れを  
抱いていたら…

それとも…

ミカ…

最近…無理してるよね？

えっ…え…  
なんで…？

ミカと話す度…  
元気があるように  
見えなくて…

ここ最近ずっと  
表情が暗いかな  
って…

あはは…  
そうかな…？

辛いことがあるのなら…  
遠慮なく言っても  
いいんだよ？